瑞光山禅林寺　〒510-1225　三重郡菰野町下村 191 番地℡・Fax059 - 393 - 2040　メール zenrinji@cty-net.ne.jp

でんでら通信 第二百十六号 令和五年十二月

坐禅会

十二月二十日（水）十時に坐禅会を開催します。みなさんのご参加をお待ちしております。

大般若祈祷会（一月十一日木曜日一時）

コロナ禍には総代さま、新しい年行事さまに代表して参詣いただいていた大般若祈祷会を、以前同様、皆様に参詣いただくこととしました。大般若祈祷会は昔から禅林寺に伝わる新年のお寺の行事です。国家、寺院、檀信徒の安泰、幸福を願う祈祷会を近隣の和尚さんにご出頭いただきます。

どうぞ、来年一月十一日午後一時からの新年祈祷会に参詣いただきますようご案内申し上げます。

なお、檀家さまに配布いたします新しいお札は、各家の玄関内（玄関に入った内側）の壁にお貼りください。そして今まで貼ってあった古いお札は、お寺本堂内に箱が設置してありますので、そこに入れてください。

檀家総会

令和六年二月十八日（日）二時より当寺本堂にて三年に一回の檀家総会を開催します。

主だった議題は、令和五年会計決算報告と令和六年会計予算案審議、総代選挙（檀家の方には別紙案内させていただきます）であります。また他に議題として取り上げていただきたいことがありましたら、当寺または総代さまにお伝えください。

オスのヒヨコ

仏教では、生物の殺生を禁止しています。それでも人間でいる以上、命を長らえなければいけません。そこで修行道場では魚や肉は食べず、野菜などの精進料理を食べています。

動物性の食品を使わず、植物性の食品のみを使うのが精進料理の基本的なルールです。

しかし、植物性の食品であればどんなものでも使ってよいというわけではなく、刺激の強い食品は「五辛(ごしん)」または「五葷(ごくん)」と呼ばれ制限されています。ネギ、ニンニク、ニラ、ラッキョウ、ノビルのことです。

また、精進料理では香辛料もダメとされています。これは悟りを開くためには煩悩を取り除くことが必要なのですが、香辛料は煩悩を刺激してしまうというのが理由だそうです。

卵に関しては、中に命が宿っているものとして昔はいけない食材とされていました。しかし、無精卵が主流となった現在では、命は宿っておらず殺傷をするわけではないので食べてもよいと考える人もいます。しかし最近、新たにその実情を知りました。

卵には無精卵と有精卵があり、無精卵はどんなに温めてもヒヨコにはかえりません。ふだん私たちが食べている卵はこの無精卵です。しかし親鶏がいないと卵は産まれませんから、養鶏業者はヒヨコを産んでもらうために有精卵を作っています。この有精卵からヒヨコにかえった時、メスであったら卵を産んでもらうためにそのまま育てます。しかしオスのヒヨコだったらどうなるのでしょうか。

オスのヒヨコは卵を産みません。そこですぐに殺処分されます。その数、世界中で年間数十億羽といわれます。

ガスで窒息死させられるヒナもいればシュレッダーにかけられ粉砕されるヒナもいるそうで、多くは飼料となるとのことです。人間の営みのために産まれたばかりのヒヨコが殺されてしまう現状の生産体制は、多くの動物保護活動家などから非難を集めています。

そんな「生まれてすぐ殺されてしまうヒヨコ」をゼロにするため、卵の段階で中のヒヨコがオスかメスかを判別する方法の開発が世界的に行われ、ようやく二〇一八年ドイツで成功したと報じられています。

しかしまだ日本では、以前と変わらなくヒヨコが産まれるとすぐに性別判定され、メスは育てられ、やがて卵製造機のように卵を産み、(といっても狭いゲージで一生を終えます) オスはすぐに殺処分されています。このように今、私たちが口にしている卵には、実はたくさんのオスのヒヨコの犠牲があるのです。

肉食である人間は、牛や豚や鶏などを育てて大きくなったら食用のため処分します。これらを総称して、産業動物といいます。これらの存在は容易に理解していましたが、卵生産の裏側にもオスのヒヨコという人間のために犠牲になっていた命があったことを初めて知りました。感謝せずにはいられません。